

院長コラム

人の暮らしは、一枚の写真ではない

在宅医療をしていると、ときどき「長く関わること」そのものに意味があると感じます。

フィンランドには「ネウボラ」という仕組みがあります。妊娠期から子育てまで、家族を切れ目なく支える母子保健の仕組みです。私が興味深いと思うのは、単に相談窓口があることではなく、家族の経過を継続して知る人がいる、という点です。在宅医療の現場でも、似たことを感じることがあります。



ある家庭では、外から一場面だけを見ると、「大丈夫だろうか」と心配になる状況がありました。けれども、私たちはその家庭に長く関わっていました。

最初はわからなかったことを少しずつ覚え、支援を受け入れ、ときには休みながら、なんとか暮らしをつないできたことを知っています。

一枚の写真だけを見れば、「できていないこと」が目につきます。でも、その前後の時間を知っていれば「ここまでよく続けてきた」という見方もできます。

人の暮らしは、一枚の写真ではなく、動画のようなものです。昨日があり、今日があり、その続きとして明日があります。

だから医療や介護では、記録が引き継がれるだけではなく、「これまでの自分たちを知っている人がいる」という感覚が、とても大切なのではないかと思います。

私はこれを、心理的な連続性と呼んでいます。困ったときだけ相談するのではなく、何も起きていないときからつながっている。そして、人生の節目に差しかったときも、そこまでの時間を知る人と一緒に考えられる。

フィンランドのネウボラを知って、在宅医療で私たちが大切にしたいことも、少し似ているのかもしれないと思いました。

診断や治療だけではなく、その人の時間を知っていること。それも、地域で医療を続ける私たちの大切な役割の一つだと思っています。

わがや自慢

スタッフ・田原家の猫「COCO（ココ）」ちゃん ♀4歳

シャム猫のブリーダー引退猫をご縁があって迎えました。

人間でいうと30～32歳。

生まれも育ちも京都ですが、7月から岡山でセカンドキャリアをスタートしました。楽しく毎日を過ごしてほしいと思います。



茶屋町ハレノヒ

「夏の思い出」茶屋町こどもかいぎ（そうめん流し）

茶屋町ハレノヒでは夏休みの子供向けイベントとして「茶屋町こどもかいぎ」を開催しました。

第一部はそうめん流し。深い庇（ひさし）のある広いテラスに本物の竹を使ったそうめんを流す「樋」をボランティアの方に作っていただきました。水流の勢いで「樋」を支える足場が崩れるというハプニングもありましたが、それも含めて子どもたちはとても喜んでいました。

第二部では「茶屋町ハレノヒでやってみたいこと」を話し合いました。お互いの話に耳を傾ける姿勢や眼差しは真剣そのものでした。



ケアが必要な方のための「折り畳みベッド」



茶屋町ハレノヒの多目的トイレは車いすやオストメイトへの対応のほか、おむつ交換台も備えていますが、新たに様々なケアの際に必要な「折り畳みベッド」を設置しました。

トイレ内に広げることができますが、2～3人で作業する必要があります。そのためご利用の際はスタッフまたは周囲にいる人にお声がけください。

そして居合わせたときには無理のない範囲でお手伝いいただけると幸いです。

ゲストシェフ紹介

茶屋町ハレノヒのゲストシェフを紹介します。

毎週火曜・水曜に入っている「緑雨（りょう）」さん。

自家製麹から酒種、甘酒酵母を作ってパンやお菓子を焼き、それを使ったキッシュやサンドイッチのプレートメニューが人気です。

限定の酒粕ベシヤメルトーストプレートは、コクがあるのにふんわり優しいソースとトーストの相性が抜群です。

水曜日は8時からモーニング営業をされているので、ぜひお立ち寄りください。



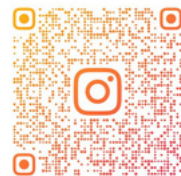
編集後記

今月もお読みいただきありがとうございます。

茶屋町ハレノヒの情報は、店内にもカレンダー（Instagramと同じもの）を印刷して置いておりますのでご自由にお持ちください。

なお詳細情報や予約等の質問はそれぞれの出店者のInstagram等にて直接お問い合わせください。

※診療所へのお問い合わせはお控えください※



@HARENOHI_CHAYAMACHI2026

茶屋町在宅診療所

〒710-1101

倉敷市茶屋町360番地12

 <https://chayamachi-homecare.jp/>

 086-429-0033



Instagram
チェックしてね!



@TORA9_9CHAYAMACHI

